

# 広島の せいきよら

平和とより良き生活のために

## 2013.JAN. VOL.39

広島県生活協同組合連合会 発行  
2013年1月1日

〒730-0802 広島市中区本川2-6-11 第7ウエノヤビル TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100  
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp

## 特集 HYGGE の 国を訪ねて…「前編」

- 年頭のあいさつ・・・1
- 特集：HYGGE の国を訪ねて・・・表紙・2-8
- 第41回広島県生協大会・・・9-10
  - 式典
  - 功労者表彰
  - 「北欧視察研修」報告
  - 記念講演 月尾嘉男 東京大学名誉教授
- 会員生協だより・・・11-12
  - 「広島のとち」と被災地に 生協ひろしま
  - ぼっけえ交流集会 福山医療生協
  - 第31回 生協まつり 竹原生協
  - 2012年 いきいき健康カーニバル 広島医療生協
  - 総合展示会開催 広島県学校生協
  - 安心を届ける 広島県高校生協
  - ◇「守りたい、子どもの命と未来」を合言葉に 広島県ユニセフ協会・13
  - ◇報告 第6回福祉学習交流会・13
  - ◇広島県消費者団体連絡協議会の動き・14
- トピックス・・・15
  - 報告 広島県大規模災害対応訓練に参加
  - 報告 広島県健康福祉局長と懇談
  - 役員執行体制のお知らせ
  - 行事紹介



### 2012国際協同組合年 を期に新しいビジョン

国際協同組合年の年にあたる2012年(平成二十四年)9月23日、広島県生活協同組合連合会主催の、「北欧視察」団の一行が成田空港を飛び立った。当連合会は、国際協同組合年にあたって、2020年に向けての新しいビジョンに、「セイフティネットの形成」「地域社会への関与」とい



う2つの柱を掲げ、8つのビジョンを提示した。ビジョンの3つの主要な項目「福祉」「エネルギー」「食糧」について、そのあり方を問うために、先駆的成果を上げている、北欧(スウェーデン、デンマーク)の2国を訪問。国内の各分野で活躍するメンバー14名の「視察団」一行は、限られた日時のなかで、福祉、エネルギー、食にかかわる多くのものをつかんで帰った…。(2頁に続く)

# 誰もが安心して暮らせる持続可能な 地域コミュニティの再生をめざして



広島県生活協同組合連合会  
会長理事 岡村 信秀

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては日頃より当連合会に対し、ご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。昨年は富田巖前会長理事の突然の訃報に接し、当連合会にとっては厳しい一年でした。

さて、日本はくらしをめぐって大きな転換期を迎えています。それは、人と人との結びつきの希薄化による「無縁社会」と呼ばれる「ばらけた社会」が広がっていることと、地域経済の疲弊や貧困・格差の拡大による生活苦と将来不安が増大していることです。

これらの克服に向けては、これまでの延長線上ではない、新たなつながりの形成と社会経済システムの革新が必要です。それは、協同の再生と地域循環型社会経済システムの再構築、すなわち協同を育み、生命の維持やくらしにとって最も根源的な食料・環境・エネルギー・医療・福祉 (Foods Energy Care) を地域自給 (F E C 自給圏づくり) させるなかで解決の糸口が見えてくると思われます。

以上の問題意識から、創立45周年を迎えた広島県生協連では、昨年10月に、「県連2020年ビジョン」を策定しました。めざす方向性は、F E C自給圏づくり、セイフティネットの形成、平和の確立をおして「誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生」を実現することです。

当連合会は、気持ちを新たにし、ビジョンの実現に向け邁進していきたいと思っておりますので、本年も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 広島県生協連 2020年ビジョン (抜粋)

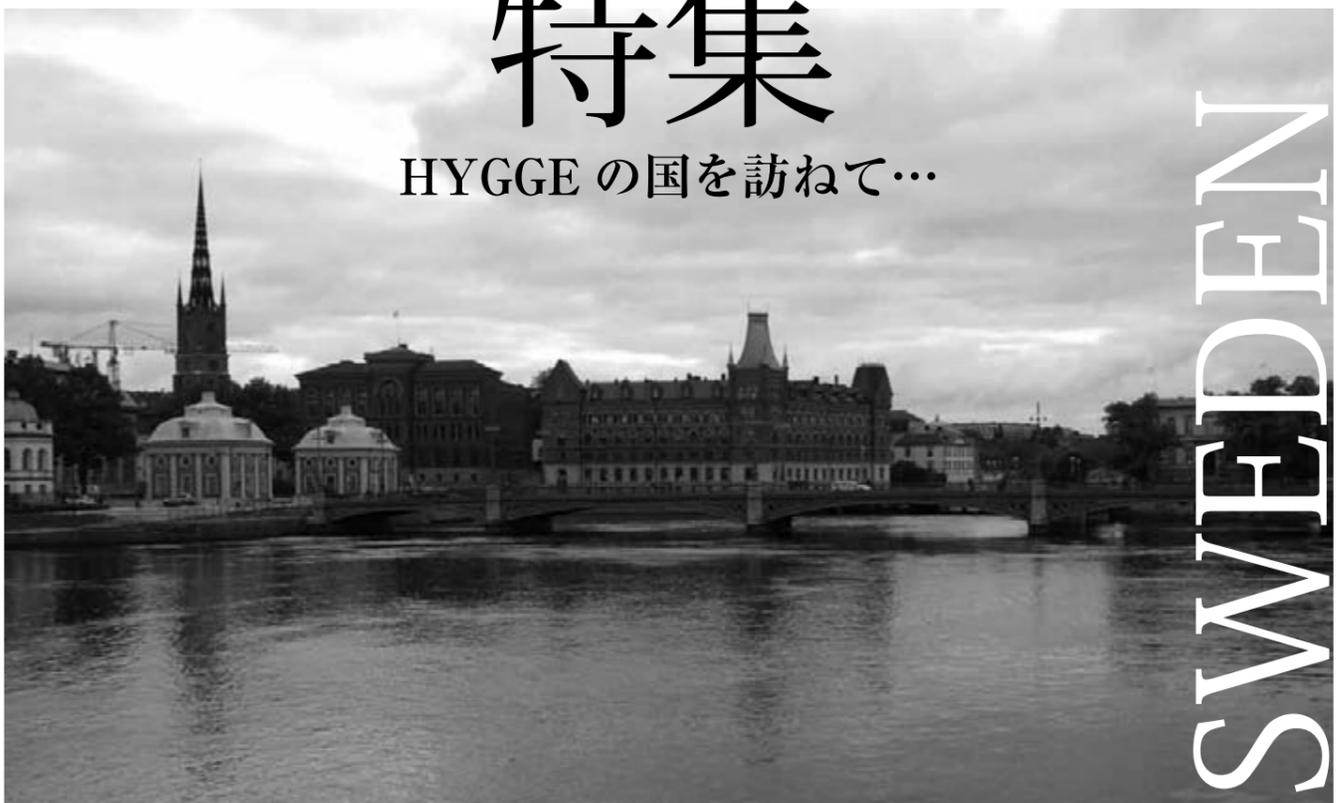
- (1) F E C自給圏づくり (食・エネルギー・ケアの地産地消)
  - ①食・食料 (Foods) 食の安全・安心の確保、食料の安全保障の確立、日本型食生活の見直し、家庭から出る食品廃棄物の削減、食育や学校給食の地産地消・・・
  - ②環境・エネルギー (Energy) 環境にやさしくし方の見直し (エコライフの推進)、家庭や事業レベルでの電力需要総量の削減、原発依存から脱却し持続可能な自然エネルギーの導入・促進・・・
  - ③福祉・医療 (Care) 生協らしい介護・医療の充実強化、高齢者向けの住宅の提供、お互いさまの助け合いの推進、老若男女が集える場づくり。
- (2) セイフティネットの形成
  - ①くらし 高齢者の出番づくり、子育て支援、買い物困難者・認知症への対応・・・
  - ②防災 行政との物資協定締結と訓練、自主防災組織との連携・・・
  - ③消費者問題 高齢者の見守りを兼ねた消費者被害防止ネットワーク形成・・・
- (3) 平和の確立 「戦争も核兵器ない平和な世界」をめざして  
平和市長会議提唱「2020ビジョン」への賛同・連携、  
広島県「国際平和拠点ひろしま構想」との連携、  
「核兵器禁止条約」の締結に向けた連帯活動の推進、被爆者団体との連携強化・・・



スウェーデンストックホルム住宅生協視察の岡村会長

# SWEDEN

## 特集 HYGGE の国を訪ねて...



■9月23日 (日) 日本出発

「スウェーデン」

■9月24日 (月)

ストックホルム市高齢者住宅視察

「エーネバックケン」：スウェーデンの住宅生協 H S B が運営する高齢者特別住宅。ストックホルムから北に車で1時間の距離にあり、自然が美しいウストオケー市のオケーショバリー地区にある。

## 一日一日がなるべく生きがいのある、 そして意義があるように生活する...

H S B は、2006年の開設で、生協(親会社：1923年)が市から委託されてスタートしたものである。建物は Daxner という不動産会社が所有。3階建て108戸、1,2階は認知症の人3階は身体的な介護が必要な人や高齢者の住まいで、各階4つのユニット(ユニット：9名)に分かれて108名の介護がなされている。1部屋の床面積は約29㎡、小さな台所、洗面シャワー室がついている。各フロアーには共用のリビング・ダイニングもある。エーネバックケンの玄関に入る

と、H S B のパトリック・シクトさんと高齢者住宅の4名のスタッフが出迎えてくれる。高齢者住宅は、事務担当、介護

「E D E N モデル」  
高いQOLを基本とし、1日1日なるべく生きがいのある、意義のあるように生活できるように支援。高齢者は機能低下や慢性病に悩むより、孤独、漠然とした不安感、時間の持て余し、等の悩みが強く、自然な形で、子どもや動物、植物などの自然にふれあえることが必要であり、そういった支援を主体としている。

福祉士、理学療法士等の資格を持ったスタッフが一組となって、シフト体制でこの介護を支えている。

高齢者住宅の共同食堂兼共同リビングで、パトリック・シクトさんから話を聞く。

H S B (住宅生協) は、生協から独立した事業で「介護業」を主体とした仕事をしている。始まりは1993年で、市民の「ニード」に応じたサービスの提供からスタートした。具体的には、働く両親に代わって、子どもたちの「ケア」と「教育」からスタートしたものだ。その後、1941年から年金受給者用の住宅提供(賃貸・利用権)を始め、1993年から「介護事業」をスタートさせた。

エーネバックケンの業務に対する評価は平均3(公的機関からの評価は段階を得ている。スウェーデンでは、高齢者施設の料金は、個人(介護者) 最高額1760クローネ(1クローネ=17円)。平均的アパート代は、6700クローネ・月、それに食事代3200クローネ・月が加わる。H S B の業務内容は、訪問介護在宅介護。両者のパーセンテージは、まだ規模が小さいのでシェア

# SWEDEN

できることはすべて自分で  
 する。ここは一人の人間と  
 して暮らすための「住宅」  
 であり、自分の生き方を主  
 張できる場でも…



ストックホルム住宅生協経営の高齢者住宅「エーネバック」



エーネバック内の図書室



高齢者住宅内の共有居間兼ダイニングルーム



住宅内の廊下を歩き回るネコ。一匹の住人だ

「施設」ではなく生活する「住宅」  
 最高責任者マルギット・マキタ  
 ロー、タニヤ・クラビンスカ（介  
 護福祉士）、ビルギッタ・ヴィク  
 ルンド（認知症専門看護師）、ギッ  
 テ・ハンソン（理学療法士）さん  
 たちに高齢者特別住居内を案内し  
 ていただき、見学。その後住宅の  
 概要と認知症ケアへの取り組みに  
 ついてお話をうかがう。  
 スウェーデンでは、高齢者住宅  
 に入居する人たちに関しては、介  
 護する人たちはできるだけ本人が  
 できることは、本人にさせること  
 を心がけている。というよりも、  
 それを徹底している。つまり、些  
 細なことでも、本人ができれば決  
 してそれを手助けすることはない。  
 手助けすることは、本人の活  
 動能力を摘み取ることになると思  
 えて、できることは徹底して本人  
 にやらせる。「その方が本人のため」  
 だとスタッフの人たちは言  
 い切る。

エーネバック内高齢者特別住居視察  
 走り回り、建物の廊下では、これ  
 また誰かが飼っているネコが「私  
 もこの住人」とばかり、ゆっく  
 りと歩き回っている。  
 個人の部屋とは別に、共同のリ  
 ビングやダイニング、サンルーム、  
 そしてかなりの蔵書が本棚に並ぶ  
 図書室（蔵書は寄付されたものが  
 多い）がもうけられており、暮ら  
 すことにはまったく不自由するこ  
 とはなさそうだ。  
 エーネバック内に暮らす人た  
 ちは、60歳代から90歳近くまで年齢  
 構成はさまざまだが、80歳から  
 85歳までの人の比率がいちばん高  
 い。そして、入居して、大体3年  
 〜4年くらいでほとんどの人がこ  
 こで生涯を終える。  
 「アクティビティ」  
 午後、食事を終えてしばらくす  
 ると、「アクティビティ」タイム  
 となる。月曜日はダンス・ビンゴ  
 ゲーム（認知症の人対象）、水曜  
 日はグループ体操、火・金曜日は  
 読書会となっている。

■9月25日(火)  
 MIKASA 視察  
 すべては暮らす人が主体  
 ミカサ(MIKASA)は、  
 ストックホルム不動産管理会社で、  
 日本の公社にあたる。社員数は約  
 100名、事業は、看護・介護住  
 宅、リハビリのための住宅、グルー  
 プホーム、シニアハウス、学生寮  
 などと所有・管理を行っている。  
 ミカサの会議室に通され、マリ  
 ア・エーンさんが同社の事業概要・  
 理念・特色を説明してくれる。  
 ミカサの高齢者福祉アパート  
 は、設計面では、「安全安心」「合  
 理的設計」「住み心地」を重視し  
 たものとなっている。そして、「パ  
 リアフリー」はもちろんのこと、  
 「アクセスビリティ」「セキュリティ」  
 「コンパニオンシップ」「ア  
 クティビティ」を重視した設計と  
 運営を図っているという。  
 ミカサ本社の隣り合わせに建て  
 られている実際の高齢者住宅とモ  
 デルルームを見学する。

個人の部屋を、何組かのグルー  
 プに分かれて見学する。各部屋は、  
 一人で住むには十分の広さで（約  
 30㎡、寝室、リビングダイニン  
 グ、トイレ・シャワールームとで  
 構成されている。各部屋の調度品  
 は、すべて個人が持参したもので、  
 それぞれの個性に合わせて、飾り  
 棚、机、壁掛けなどが飾り付けら  
 れ、各部屋とも、住む人それぞれ  
 の個性であふれている。また、庭  
 の外では、誰かの飼い犬が自由に

実際のダンスタイム。部屋中に  
 リズミカルな音楽が流れると、ス  
 タッフや、われわれ訪問者も混  
 じって、ダンスの競演となった。  
 それまで、静かにいすや車いすに  
 座っていた人たちが、立ち上がっ  
 てパートナーと腕を組むと顔をほ  
 ころばせて広いダイニングルーム  
 を踊ってまわる。心地よい音楽、  
 音楽に合わせて身体を動かす、日  
 常を離れたにぎわいに、居合わせ  
 た全員が、上気した表情になっ  
 ている。

# SWEDEN



ダイニングにはキッチンも備えられている



高齢者住宅内の個人の部屋の「居間」



ベッドの上には収納ボックスがあって、補助用器具が



豊かな暮らしを約束する共用の「居間」兼「食堂」



自然と暮らすために。「造園設計士」の思想が生きて…

モデルルームの玄関ドアは、高  
 齢者の方や認知症の方にも、そ  
 こが「ドア」だとわかるように濃  
 い色（ブルー）で塗られている。  
 そして、ドア横には、カメラ付き  
 のインタホンが取り付けられ、暮  
 らしのセキュリティにも気を配ら  
 れている。

フリーの床、証明を消すと自動的  
 に足元や床を照らす照明がつくな  
 ど、様々な工夫が凝らされている。  
 キッチンも、車いすでも使えるよ  
 うに、その高さに合わせてオーブ  
 ンの高さが決められている。とく  
 に、ベッドのヘッド側の壁には、  
 白いボックスが取り付けられてい  
 る。それを開くと、身体能力がさ  
 らに衰えた際、動きを補助するリ  
 フト、掃除道具、その他の器具が  
 納められていて、ここで暮らす人  
 の将来にわたっての工夫が凝らさ  
 れている。

この生活で重視される一つ  
 に「コンパニオンシップ」が挙げ  
 られる。家族を含め外部からの訪  
 問者が、住居者にごく気軽に面会  
 できるように natural meeting room  
 があり、ここで暮らす人も他の人  
 たちと気軽に欲談できるコミュニ  
 ティスペースも整っている。また、  
 レストランも、広くて明るい設計  
 で、食事後もくつろいだ気分と同  
 居の人たちとのコミュニケーション  
 や交流をはかることができる。

造園設計士の参加  
 A Qアーキテクトチャーは、建築  
 設計会社で、建築設計士、造園技  
 師、建築技師、イラストレーター、  
 ヴィジュアル専門家が働いてい  
 る。この会社の、ゲスト用の部屋  
 で建築設計士のダンさんと造園技  
 師のアンナさんに話をうかがう。

造園設計士のアンナさんの話で  
 は、ここで暮らす人は、できるだ  
 け緑と自然に接することができる  
 ように、建物外の庭は設計され  
 ているという。そして、住人が、  
 昔自分の周りにあった草花や植物  
 を思い出せるよう、できるだけそ  
 ういった植物を植栽している。知  
 らない植物ではなく、見たこと  
 がある、子どもの頃になじんでき  
 た植物が身近にあることは、住む  
 人たちの心を根底からくつろがせ  
 る。そして、自然に一層親しむこ  
 とができるのだという。

個人の部屋は、リビング・キッ  
 チン、洗面室、寝室の3室が基  
 本となっており、どの部屋も明  
 るい雰囲気、暮らし心地の良  
 さを感じさせる。また、各部屋に  
 は、高齢者・認知症の方に対する  
 設備や照明、コンセントの位置と  
 高さ、掃除しやすいようにバリア

エスケルスキューナー市、  
 A Q アーキテクトチャー視察  
 エスケルスキューナー市は、建築  
 設計会社で、建築設計士、造園技  
 師、建築技師、イラストレーター、  
 ヴィジュアル専門家が働いてい  
 る。この会社の、ゲスト用の部屋  
 で建築設計士のダンさんと造園技  
 師のアンナさんに話をうかがう。

自然と草花とともに暮らす  
 エスケルスキューナー市、  
 A Q アーキテクトチャー視察  
 エスケルスキューナー市は、建築  
 設計会社で、建築設計士、造園技  
 師、建築技師、イラストレーター、  
 ヴィジュアル専門家が働いてい  
 る。この会社の、ゲスト用の部屋  
 で建築設計士のダンさんと造園技  
 師のアンナさんに話をうかがう。

自然と暮らすために。「造園設計士」の思想が生きて…  
 の関わりを重視した設計思想を  
 持っていることの証しでもある。  
 オフィスと少し離れたところに  
 ある、高齢者住宅を見学する。こ  
 こでは、先に紹介したA Qアー  
 キテクトチャーの数々の設計思想が  
 具現化されており、建物のデザイ  
 ンはシンプルであるが、一つ一つ  
 の個人の部屋、また共有スペース  
 も設計の細やかさが行き届き、快  
 適に見える。共有スペースのレス  
 トランは、ここで暮らす人が主体  
 に設計されているが、多くの人と  
 接触できるように、外部からの  
 訪問者も利用することができる。  
 とくに、A Qアーキテクトチャーの  
 特色である、「アットホーム」で  
 あって、外的環境も、「健康促進」  
 「多くと接触できる」「外部環境と  
 の区切り」「庭仕事や積極的にな  
 できる」「光の採り方」「四季を通じ  
 て刺激できる植物」「オリエンテー  
 ションができる」といった特徴と  
 工夫が随所に見られる。

この生活で重視される一つ  
 に「コンパニオンシップ」が挙げ  
 られる。家族を含め外部からの訪  
 問者が、住居者にごく気軽に面会  
 できるように natural meeting room  
 があり、ここで暮らす人も他の人  
 たちと気軽に欲談できるコミュニ  
 ティスペースも整っている。また、  
 レストランも、広くて明るい設計  
 で、食事後もくつろいだ気分と同  
 居の人たちとのコミュニケーション  
 や交流をはかることができる。

# DENMARK

# DENMARK

## 国民の幸福度、世界ナンバー1の国

### 「学研都市」オーデンセの福祉



オーデンセ市庁舎

■9月26日(水)  
終日オーデンセ視察  
オーデンセ市庁舎訪問

デンマーク・オーデンセ市について、大加瀬恭子(通訳)さんの事前説明があった。

その後、オーデンセ市の高齢者福祉施策について、オーデンセ市高齢者障害福祉課サービス判定員チームリーダーのインゲ・トロープさんから市の機構と、福祉施策についてうかがう。

インゲさんは、まず、オーデンセ市の統治機構を説明。オーデンセ市の機構は市長を頂点とし、そ



オーデンセ市市議会場

の下に議会があつて、議会の下にそれぞれの担当部署がある。担当部署は、「社会」「労働」「都市」「福祉」「教育」「他」等に分かれている。面白いことに、デンマークでは、議員も市長も選挙で選ばれるが、議員は報酬なしのボランティアである。市長には給与がある。議会の下にある「福祉部門」、オーデンセ市高齢者福祉部門は、「介護課」をはじめ4つの課に分かれていて、それを取り巻くようにして、トレーニング支援、サービス支援があり、それらすべてが「対話」によって運営されている。とくに、高齢者施設においては、お年寄りの方が、「自分でできることは自分の意志をもって自分でやる」ということを徹底している。また、若い人に負担になるようなことは決して強いることをしない。そして、本人たちに自分で考えてもらい意思決定をし、結論を出し自分で「目標設定」するように心がけているということだ。そのうえで、市それぞれの専門家(福祉士・看護師・理学療法士・医師・他)たちが、高齢者が下した決定(目標)を実行に移せるように手助けする。とにかく、高齢者と「対話」し、高齢者のモチベーションを高めることに、最大限の努力をしている。

具体的な介護は、ある特定の人に対して、市の福祉担当者を決め、その担当者が中心となって高齢者と話し合い目標を決める。そし

## デンマークの高齢者福祉の基本は、本人がクオリティの高い生活ができるだけ長く続けられるように、それを手助けすること...



オーデンセ市職員インゲさんから話を聞く



オーデンセ市高齢者住宅玄関



高齢者住宅共有「食堂」団らんが目に浮かぶようだ...

が一緒に生活する施設については、一緒になったものは比較的新しいもので、徐々に協力の必要性が出てきて、将来的には幅の広がりを見せるものと考えられている。

高齢者センター：アルバーニー・ブライエセンター視察

「併設・プライエポリー(介護住宅・保護住宅)・エルダーポリー(虚弱化した人、アルコールや薬物中毒からの復帰を目的とした高齢者住宅)センター長のヘレ・アンデルセさんの案内と説明がある。

アクティビティは、近隣の住民や隣接する高齢者住宅などから高齢者や障がい者が参加するが、参加者をたくさん集める人気のあるセンターには、それ相応の予算配分の増加があるので、施設の運営者は運営に力を入れている。

配食サービスを望む方には配食センターから自宅に食事が届けられる。前もってメニューが配られ、注文・配達時に冷凍した食事が数日届けられ、利用者は解凍し暖めて食す。カフェテリアでは食事が提供され、地域の誰もが利用できる、多世代の集うスペースとなっている。

視察で訪問した施設は1932年に開設されたもので、オーデンセ市の26の施設のうちの一つである。ここには5つの棟があり、各棟は個人アパートと共同のキッチンや居間とで構成されている。入居者は、市から判定された65歳以上の在宅生活が困難な人たちである。また、ケアスタッフが配置されたプライエポリー(介護住宅・保護住宅)や、エルダーポリー(虚弱化した人の「早めの移り込み」のためや、アルコールや薬物中毒からの復帰を目的とした高齢者住宅)もセンターに併設、もしくは接して建てられている。ここに人が集まり、ここからサービスが出て行くことになる。

### デンマークの福祉政策

デンマークでは1987年に高齢者住宅法を改正し、日本の特別養護老人ホームにあたるプライエムの建設を中止。現在これを改修してプライエセンターとして改修・利用している。センターは地域の福祉の核になる施設で、デイセンター、カフェテリア、配食センター、アクティビティルーム、訪問看護・訪問介護ステーションなどからなる。通所サービスにあたるアクティビティセンターではいろいろなイベントが計画され、公共交通機関を利用して地域の高齢者が通ってくる。介護予防も含めて、さまざまな活動があり、簡単な体操からヨガまで、身体のケアに関することや、小旅行、パーティーやパーティ、などがアクティビティとして行われている。

施設の実態は、資格を持った3組のスタッフ(社会福祉士・介護福祉士・看護師・理学療法士など)によって、1日3交代

### ※ボランティア事情

日本では、「公助」「共助」「自助」ということが言われているが、北欧の国々では、国民のボランティア意識は非常に高い。むしろ、「3人寄れば」といった社会意識の発達で、他者に奉仕するという考えは当たり前である。それだけに、福祉においても、ボランティアの人たちの積極的な参加によって、その活動が下支えされているという実情がある。



高齢者住宅共有「居間」豊かな暮らしが垣間見える

オーデンセ市では、現在、3300の身体的介護を必要としている人がいるという。そのため、約6100名のヘルパーを必要としていて、その人々を3つの地域に分けて派遣し、在宅の方を訪問してのリハビリやトレーニングを行ったりしている。デイサービス施設は、65の施設があるという。また、高齢者施設は「プライエポリー」：介護を必要とする人の施設、「エルダーポリー」：介護施設(自力で生活する人の)が合わせて26施設(28、134室)ある。

また、「高齢者」と「障がい者」

# DENMARK

24時間体制で運営されている。また、その他に常勤ではないが、施設の専属医師、看護師、医学療法士の存在もある。このような住宅では、個人の尊厳に関わることは、すべて当人たちの判断によって決定される。住宅経営者の利益より、「個」が尊重され住まう人の利益が最優先となっている。だから、食事も、基本的なメニューはあらかじめ決められているが、各ユニットで個人のニードや意見を入れて、フレキシブルに作ることもある。アクティビティなどは、週2回ほど市からスタッフに派遣されてきて活動している。また、さまざまな催しや活動には、ボランティアの人たちが大きな役割を果たしている。

ここに居住して生活に必要な費用は、6000クロネ・月、日本円では10万6000円ほど、この金額は、本人の収入や財産状況で決定するが、高収入の人はほとんどいないという。また、逆に収入の少ない人は、住宅手当といったもので市の方から補助が出る。不足分は、「公的扶助」ということだ。基本的に、収入から負担できる範囲以上には、家賃は高額にならない。また、こうした住宅の利用は、希望する人は2つまで選択できる。そして、待機ということとはなく、ほとんどの人が希望して判定を受ければ入居できる。もし待つようなことがあっても2〜3カ月で、その間は手厚い在宅介護が施され、待機期間がカ

バーされる。

ここでの入居者は、年齢的には65歳以上から100歳近くまでのさまざまな年齢層であるが、80歳〜85歳くらいまでの年齢の人がいちばん多い。入居平均期間は大体4年前後、ほとんどの人がここで生涯を終える。

デンマークの高齢者介護は、日本の高齢者介護状況から見ると、夢のような話であるが、ここオーデンセでも年々増加する福祉費用の増大で、各個の施設の経費削減が促されているのが現状だ。



掃除を手助けする掃除ロボット「Rumba」



認知症の住居者の出入りを確認できる「玄関マット」

## 確かな援助で「生きる」暮らしを支える

■9月27日(木)

ルッターカセアン・プライエセンター視察  
センター長のローン・ハイさんが案内、説明。



庭園内の憩いのスペース



個室の「居間」住む人の個性と生き方が...

ここに入居している人たちは、一般的な介護が必要な高齢者が3分の1、自分で生活できる高齢者が3分の1、認知症の人が3分の1という構成になっている。年齢層は60歳〜90歳までと幅広いが、他と同様に平均的なところは80〜85歳が大半を占める。職員の人数は、介護に携わる人は55人、リーダーと副リーダーがそれぞれ3名ずつ、1人はアクティビティの専門員、9人のボランティアも活躍している。そして外部に「ヘルスドクター」の存在がある。介護の仕事の人たちは、基本的には「残業」はない。ほとんどが定められた週の労働時間内で働いている。日本の現状とは比較にならない。建物の設計は、入居者が外に迷って出ないように、出入口は各部屋を囲うように設計されている。施設は100%市の所有であるが、運営費は、年間2000万



若き日の栄光の日々がよみがえる部屋

クローネ、日本円で約3億円である。実際の施設を見学する。個人が生活する部屋は、平均約30㎡、ダイニングキッチン、寝室、トイレ・シャワールームで構成されており、見た目にも清潔で快適だ。その他に共有の食堂とリビングルームもあり、日常生活は何も不自由することがなさそうだ。廊下のスミには、掃除ロボットなどが置かれており、介護業務の効率化も図られていることがうかがわれる。また、共有のリビング・キッチンからは、外の庭をみることもでき、居ながらにして緑と自然と建物に取り囲まれるようにして植栽がされている庭は、所々に、長椅子や休憩できる設備が設置されていて、住民はいつでも自然のなかに身を置くことができる。

85歳過ぎの高齢者の男性の部屋を見せてもらう。部屋の壁には、シカ、カモシカ、ヌー、他といったアフリカの野生動物のはく製が一面に飾られている。この老人が若くて元気な頃に、アフリカに出かけてハンティングで仕留めた動物たちをはく製にしたものである。車いすに座っている、かつての「ヘミングウェイ」は、皆から賞賛や質問を受けると、たどたどしい言葉ながらも、顔を輝かせるようにして答えている。

# DENMARK

## アンデルセンの生まれ育った街



フェアリーテイル公園のアンデルセン像

プライエセンターからの帰り道、市内にある緑豊かな河岸と公園を歩く。オーデンセ川は、市内にある緑豊かな場所の一つである。「太陽の塔の切り絵」が目印のアンデルセントレイルに沿って、かつてアンデルセンの母親が洗濯をしたとされている場所にたどり着く。川はゆったりと流れ、まるで母親が今までそこにいたかのように静寂の時間を醸し出している。川岸は、聖クヌード教会の大聖堂を背にしたフェアリーテイルガーデン公園になっており、そこには有名なアンデルセン像が建っている。

市庁舎を中心にして、オーデンセ市の名所を訪ねる。  
ハンス・クリスチャン・アンデルセンは、貧しい靴職人と洗濯婦の息子として1805年にオーデンセで誕生した。彼は幼少期をこ



市庁舎のとなりにある大聖堂

のまちで過ごし、4歳のときにコペンハーゲンへ行き、苦勞の末今日世界的に知られている有名な作家となる。オーデンセの街は、アンデルセンが暮らしていた当時とはかなり変わってしまったが、彼が暮らしていた頃と同じ様子の家や市街地がまだいくつか残されている。市庁舎の隣にある「聖クヌード



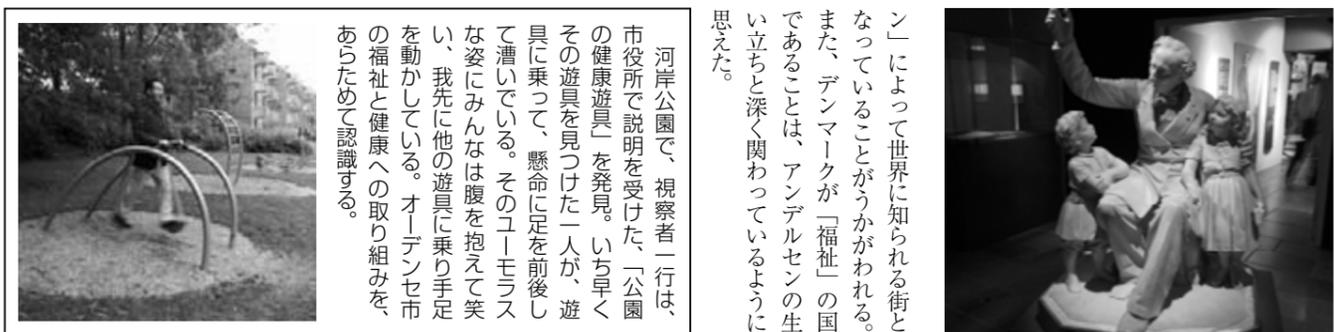
アンデルセンが幼い頃住んでいた家



靴職人だったアンデルセンお父さんの仕事場

教会を訪れる。1819年、この教会でアンデルセンは堅信礼を受ける。またこの大聖堂は、彼の両親が1805年に結婚式を行った場所でもあり、父親は1816年33歳でこの世を去り、ここに埋葬されている。教会から徒歩圏内にあるアンデルセンの生家を訪れる。緩やかな坂道の途中にある旧家は、彼が2

歳から14歳まで過ごした家だ。入館料を払って、小さな旧家の室内に入ると、目の前に靴職人だった父親の小さな作業机がある。その横に物入れを兼ねた長椅子があり、その上蓋は開閉式になっている。幼少のアンデルセンは、この長椅子の底に横たわって眠ったという。長椅子の向かい側には、両親のベッドがある。すべてが一つの部屋に納まっていて、その狭苦しさが、往時の一家の貧しい生活を彷彿とさせる。部屋の奥の扉から外に出ると10畳ほどの広さの裏庭がある。裏庭には石畳が敷き詰められ、幼少の頃のアンデルセンがよく遊んだ庭だという。裏庭の向こうは広場となっており、そこに大きな樹が枝葉を茂らせている。旧家の案内人の話では、アンデルセンが暮らしていた時代からここにあったものだという。



子どもに話を聞かせるアンデルセンの彫刻 (博物館)

アンデルセン博物館を訪れる。建物は、ガラス張りになっていて、外の公園の光が室内に注いでいる。博物館の敷地内には、アンデルセンが1805年に産声をあげた黄色い小さな家も残されている。この小さな家と地域は、当時は街のスラム街の一部であったという。往時、この家に5家族が住んでいたといい、一家の貧しい生活ぶりがしのばれる。博物館内は、アンデルセンの生い立ちから生涯を終えるまでの数々の遺品が展示されている。博物館の展示の密度から、オーデンセが「アンデルセ

# 国際協同組合年・県連創立 45 周年記念

## 『第41回広島県生協大会』を開催

～月尾嘉男さんの講演で協同組合の社会的責任を確認～  
日時：2012年10月25日(木) 会場：メルパルク広島



講演に引き込まれる参加者

国際協同組合年と広島県連創立 45 周年が重なった今年の生協大会。『県連の 2020 年ビジョン』も発表し、新たなスタートの位置づけで開催しました。記念式典、功労者表彰、北欧視察研修報告、記念講演と内要は盛りだくさん。地球環境も経済も厳しい時代だからこそ、協同組合間協同を強め、地域のみなさんと一緒に「誰もが安心してらせる地域コミュニティの再生をめざして」取り組み、社会的責任を果たす決意を新たにしました。(参加者 220 名)



主催者挨拶する岡村信秀会長理事

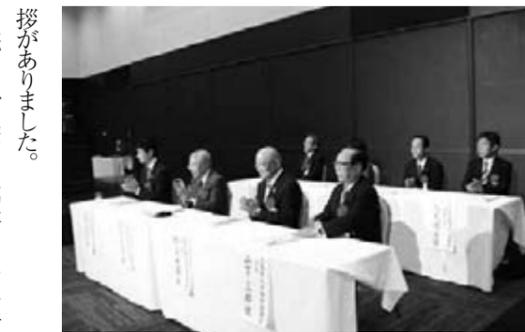
**式典**  
パン・ギボン国連事務総長国際協同組合年へのビデオメッセージ(2011年ICA総会へ寄せられたもの)を上映し、ご来賓や関係団体の皆様とともに、国際協同組合年の意義を確認しました。

### 主催者挨拶、来賓祝辞

主催者挨拶では、岡村会長理事より、FAC (Foods Energy Care) 自給圏づくりとセイフティネット、平和の確立など、県連2020年ビジョンに基づき進めたいとの挨拶がありました。



来賓祝辞：湯崎英彦広島県知事



- <ご来賓>
- 湯崎英彦 広島県知事
  - 佐伯克彦 広島市市民局長
  - 村上光雄 県協同組合連絡協議会会長
  - 山下三郎 県社会福祉協議会会長
  - 湯浅敏郎 広島平和文化センター常務理事
  - 清田清美 県消費者団体連絡協議会会長
  - 北島國廣 県労働者福祉協議会事務局局長
  - 人見昭生 日本生協連中四国地連事務局

続いてご来賓を代表して、湯崎英彦広島県知事、佐伯克彦広島市市民局長、村上光雄広島県協同組合連絡協議会会長(JA広島中央会会長)の3名から、災害時協定や消費者被害防止、平和や福祉等、くらしの安全・安心への生協の幅広い取り組みへの評価と期待のご挨拶をいただきました。

今年、行政と関係団体(各協同組合、消費者団体、被爆者

功労者表彰を受ける尾野展昭さん



団体、社協、ユニセフ、環境・福祉・平等NPO、ワーカースクープ、中国新聞社等25団体)から約50名の参加がありました。

### 創立45周年記念功労者表彰授与

組合員枠4名、役員枠9名の被表彰者に、表彰状と記念品が授与されました。被表彰者代表挨拶では、尾野展昭広島修道大学生協前理事長(現広島医療生協理事長)より、終戦直後の困窮した食糧事情とその後の食の安全を取り巻く厳しい時代の中で生協が果たしてきた役割や、今後の生協活動への期待が述べられました。役員一同、生協を献身的に支えてこられた先達方に学び、組合員の皆さんと歩む決意を新たにしました。

## 「国際協同組合年・県連創立45周年記念「北欧視察研修」報告



福祉と自然エネルギーの先進事例を学ぶため、北欧を視察研修した報告を、高田公喜県生協連常務理事(現専務理事)が行いました。

型社会経済システムの形成に貢献する」という県連「2020年ビジョン」に基づき、県生協連が主催したものです。大会当日は、視察研修に同行した平井中国新聞社記者の新聞記事(6回連載)も資料配付しました。

福祉分野では、スウェーデンの生協の高齢者住宅等の事例や、エネルギー分野ではデンマークのロラン島という田舎が、自然エネルギー100%自給を実現し「世界最先端の島」となった事例などが報告されました。「福祉(Welfare)」の本来的意味が「しあわせ」「ゆたかさ」であることを改めて考えさせられる報告でした。

この研修は、国際協同組合年を機に「人間尊重のくらしづくり・地域づくりを推し進め、自立・協同・連帯の力で地域循環

※今回の参加者は、生協関係者その他、JAやタカキベーカーリーはじめ、環境カウンセラーや福祉研究所、1級建築士(都市計画)、ファイナンシャルプランナーや色彩プロデューサー(アート福祉)など、これまで生協連と環境・福祉・生活設計等について連携・研究してきた様々な分野の14名でした。現地では各分野の専門的知見による広範な質問が出され、学び豊かな研修となりました。

## 「国際協同組合年と環境共生型社会」記念講演



月尾嘉男東京大学名誉教授(工学博士、冒険家)をお招きし、「国際協同組合年と環境共生型社会」をテーマに学びました。世界各国の先住民を訪ねた際の鮮やかな写真と共に、環境問題を中心に、現在社会が抱える様々な課題と、持続可能な社会にするための経済のあり方や相互扶助の普遍性について、お

話いただきました。ボランティア経済やフェアトレード等、参加者にとって関心の高い話題が多く、生協が確信をもって進むべき方向性についても、確認できました。

地球規模の課題について、明快かつ温かな口調でわかりやすくお話しいただき、生協組合員・さんから、学ぶ点の多いアカデミックな内容だったと、高い評価の声が寄せられました。

## 東日本大震災復興支援継続の思いを込めて…

ヴィオラ：沖田孝司さん  
ピアノ：油田千春さん



東日本大震災チャリティーコンサートにも精力的に取り組み、地元広島で音楽を通したつながりづくりを大切に活躍しておられる沖田孝司さんのヴィオラ演奏で幕を開けました。被災地に寄り添った復興支援の継続を、参加者のみなさんと確認しました。

## 食の実態アンケート調査

食の安全委員会

いま、朝食抜きで登校する子どものことが問題になっています。

食の安全委員会では2月3月にかけて子育て中の生協の組合員を対象に「食の実態アンケート」を実施しました(571枚回収)。集約結果から約98%の世帯が朝食を食べさせていますが、家族が一緒に朝ご飯を食べている世帯は83.4%でした。残りの世帯は子どもだけで、あるいは1人で食べているという結果でした。

一緒に食べない理由の約6割は家を出る時間が遅いからです。家族揃って食卓を囲むという食文化は遠距離通勤・通学で難しくなっているという現状が見えました。朝ご飯を作る時に気を付けていることは、

- ① 「簡単に作る事ができる」
- ② 「喜んで食べてくれる」
- ③ 「栄養バランス」

忙しい朝の時間は、簡単に手早く…が一番のようです。現在、子どもを持つ若い世代向けに朝ご飯を食べることにメリットを伝えるツール作りを計画中です。

(事務局)

# 「広島の心と味」を被災地に届けました 672枚焼きました

生協ひろしま

東日本大震災で被災された方々の気持ちに寄り添い、「私たちは忘れていません」というメッセージを伝え、少しでも元気になっていただこうと、生協ひろしまから「お好み焼き隊」を派遣しました。派遣先は、福島、宮城、岩手の3県。組合員と、役職員総勢18名が、ボランティアとして参加し、地元の仮設住宅などでお好み焼きを食べていただきました。派遣に当たってはオタフクソースさんが全面的に協力してくださり、事前の「焼き方研修」ばかりでなく、ソースや食材などの提供を受け、今回の企画を実現することができました。



福島県 福島市と安達郡  
10月8日(月)・9日(火)

宮城県 名取市、東松島市、仙台市  
10月11日(木)・12日(金)

岩手県釜石市、大槌町  
10月14日(日)・15日(月)



コープふくしまの組合員さんや職員が手伝ってくださり、大変助かりました



生協ひろしまの組合員さんや職員がメッセージを書いたのれんをかけた



釜石市で開催された生協まつりに出店。昨年は震災の影響で中止だったそうです

## つながりを大切に 協同のわを広げよう!

ほっけえ元気がでる交流集會に146名 福山医療生協

生協強化月間のスタート集會として、交流集會が、9月16日(日)にさんセンターで開かれ、146名の組合員と職員が有意義な交流をしました。  
はじめに乃美専務から原発再稼働、消費税増税の問題など、命とくらしの危機が深刻になっている今こそ、協同の「わ」を大きく広げ、安心して住み続けられるまちづくりのために、自信と確信を持って生協強化月間に取り組みしましょう

### 意見交流会

生協のよいところは…

医療生協では健康づくりが出来る。健診料金が安い。手配りで近所の組合員とのつながりができた。班会で仲間との楽しみが増えた。たすけあいの会で活動・利用ができる。などがあげられました。

協同のわをひろげよう  
体験を話して仲間を増やしたい。健診のお勧めは人助け。地域や組合員に一人ぼっちを作らないように。仲間ふやしは難しいと思っていたが、まずつながりを作ろう。など、ほっけえ元氣の出る交流集會となりました。



## 学校生協・高校生協総合展示会開催

広島県学校生協

11月に恒例の総合展示会を三次、広島、福山の3会場で開催しました。この展示会は学校生協と高校生協との共催で行っており、今年で30回目の開催となりました。組合員さんによる模擬店や地元産品の販売、また、お楽しみ抽選会やビンゴゲームなど様々な企画を用意しました。



職場は年々多忙化し、日常の生協活動が難しくなっていますが、この展示会が組合員さんと指定店そして生協職員が一堂に会して交流を深める絶好の機会となっています。

## 安心を届ける

産地直送の野菜が並ぶ店先で、それを作ったお百姓さんの写真を見かける。その写真は安全性を保証するものではないし、ちよっと高いので買わないことも多いが、安心感がある。  
賞味期限や消費期限、カロリーや成分表示を確かめて買っている人も多い。科学的な基準をクリアした食品は安全なのだが、それは安心と同義ではないように思う。安心は心、気持ちの問題で主観的なものだから。

古い私には最近のネット通販の伸びは驚異である。その商品の情報は過不足なく掲載されているにしても、実物を見たいと考える私はやっぱり古い(とつくづく)思う。対面して、面談をして商品を買ってもらおう。私たちが扱っていますと顔の見える営業活動を、学校巡回販売などを今後とも続けていきたいと思えます。そして信用をより確かなものにならしたいと思えます。

広島県高校生協 専務理事



## 青菜ブースが大にぎわい! 第31回生協まつり

竹原生協

去る10月28日(日)、第31回生協まつりを開催しました。前日からの雨に実行委員もハラハラしながら準備を進めましたが、開会に合わせて雨はあがり、オーピングの太鼓が鳴り響く中、盛大にまつりを開く事ができました。今年も店舗のPRを兼ねて扇町店駐車場を会場にしましたが、毎年大賑わいをみせる青果ブースを始めとして各ブースでも元気な声飛び交い、イベントでは太鼓やキッズダンスの披露に組合員さんからは大きな拍手と笑顔がこぼれていました。来年もこの笑顔が見られるよう、生協一丸となって取り組んで参ります!

## 新広島共立病院建設着工

楽しかったなあ!「2012いきいき健康カーニバル」

広島医療生協

広島医療生協のセンター病院広島共立病院が建て替わります。共立病院が開院したのは1977年、今から35年前です。その10年前に医療生協を発足させ、安佐郡祇園町で診療所活動を始めていました。当時は広島市に隣接した地域でありながらも「夜間は無医村」といわれるほど貧困な医療状況でした。「だれでも・いつでも診てくれる病院が欲しい」という願いが広がり医療生協が設立されたのです。それから10年後に入院が出来る病院、広島共立病院がオープンしました。病院周辺は、稲穂が黄金色に輝く田園地帯でした。

「ボールボーイ」、「ご当地ヒーロー」「メープルカイザー」などを招き、まつりの宣伝を強めました。当日は3200人の参加があり大成功となりました。まつり協力券も普段の倍の4500枚普及できました。  
新病院の建物レイアウトや救急医療体制、新しく導入する緩和ケア医療などの情報交流もしっかりとできたカーニバルでした。みなさまのご協力に感謝します。ありがとうございました



新広島共立病院は、来年3月から工事開始です。患者駐車場に建設するため、臨時駐車場の確保など悩みが尽きません。そんな訳で、毎年開催してきた健康まつり「いきいき健康カーニバル」も今年が最後になりました。新病院建設をアピールするために、今までにならぬ参加者を集めようと支部組合員・事業所職員が決意を固めました。沼田高校出身の若手漫才コン

## 「守りたい、子どもの命と未来」を合言葉に

広島県ユニセフ協会

広島県ユニセフ協会(旧(財)日本ユニセフ協会 広島県支部)は、開発途上国の子どもたちを支援するユニセフ活動の広島の拠点として、2006年3月に地域の多くの方のご協力を得て設立され、7年目を迎えております。



世界では、年間約760万人の子どもたちが満5歳の誕生日を迎えることなく、その命を奪われています。その原因は十分な保健サービスを受けられない、栄養不良、安全な水を得ることができない、自然災害、紛争に巻き込まれるなど、さまざまな理由があり、厳しい環境で生きることが困難な状況です。また、学校にも通うことができず、過酷な労働を強いられる子どもたちも沢山います。

広島県ユニセフ協会は、こうした子ども達の現状をポスター展、講演会、学習会などを通して、広島県内のより多くの方にお伝えし、支援の輪を広げるための活動を行っています。年間の活動の中では、フラワーフェスティバルや国際交流・協力に関係する事業など毎年参加させていただく活動もあり、年間貯めておいてくださった募金をお届けくださる方もあり、地域に少しずつでもユニセフの活動が根付いていることを実感でき、大きな励みになっています。

また、12月には、広島市内で三か所、東広島市内で一か所、「ワクチンで、守ろう 小さな命」をテーマに、ユニセフハンド・イン・ハンド募金に取り組みしました。とても寒い一日でしたが、幼児から小学生、中高校生の参加もあり元気いっぱい呼びかけをし、道行く人々から「ご苦労さま」「頑張ってるね」と声もかけていただきながら、沢山の暖かいお気持ちと募金をお預かりすることができました。こうして、一人ではほんの小さな力でも同じ思いを持っている人が沢山集まれば、大人数になり、それがまた次の活動への一歩とつながります。「守りたい、子どもの命と未来」を合言葉に私たちと一緒にできることから始めてみませんか？

(事務局長)

## 「コミュニケーションカアップ学習会」を開催

### 第6回福祉学習交流会

■日時：12月15日(土) ■会場：広島中央保健生協「生協けんこうプラザ」研修室(広島市西区)



主催者挨拶をする高田公喜事務理事



笑顔の絶えない会場



講師の丸山法子さん

■参加：3会員生協80人

県連「福祉事業推進協議会」では、生協の福祉現場で働く一人ひとりが生き生きと輝けることを応援する学習交流会を、年1回開催しています。6回目の今年のテーマは「自分も相手も大切に伝える方」。

講師は、(社)エゾン地域福祉研究所代表理事の丸山法子さん。ワークショップ中心の楽しくあつという間に感じた2時間半の中で、相手を大切にしながら自分の気持ちや意見をわかりやすく伝えるための、コミュニケーションスキルを磨きました。

●アンケートの声  
「丸山先生の講義に引き込まれ、時間のたつのも忘れてしまいました。五感を使って素敵な意思疎通がはかれれば、素敵な仕事ができると思います。」  
「言葉だけでは伝わらないことを体感しました。笑顔、態度、視線、聞き方のくせなどを理解し、これからも頑張りたいです。」(ヘルパー)

「自分のコミュニケーションの取り方の癖に気づけました。」  
「ヘルパーさんとの会話でも信頼関係を築き、利用者さんの満足度へつなげられるよう、努力したいです。」(サービス提供責任者)

## 広島県消費者団体連絡協議会の動き

### 湯崎英彦知事と懇談

■日時 12月4日(火)

■会場 広島県庁知事室

広島県消費者団体連絡協議会(県内7つの消費者団体で構成)以下消団連)は湯崎英彦広島県知事を訪問し、2012年8月から9月にかけて実施した『意識調査』及び2011年度実施した『市町消費者行政しらべ』について報告と懇談を行いました。

30分という限られた時間設定の中で報告を含む懇談会ではありませんでしたが、終始和やかな雰囲気での懇談会を終了しました。



### 消費者のついで2012

■日時 11月7日(水)

■会場 鯉城会館

消費者のついでには、消費者団体相互の交流と活性化の促進を図るとともに、一般消費者を交えて複雑・多様化する消費者問題を考え、消費者啓発を促進することを目的として開催しました。(広島県との共催 参加者約200名)

消費者団体の活動報告(意識調査の分析結果・寸劇による消費者啓発活動)の後、弁護士で東京経済大学教授の村千鶴子さんが、『わかっているのにだまされるのはなぜ?』(消費者心理につけこんだ悪質商法に遭わないために)と題して講演。悪徳業者が消費者の心理につけ込む説得技術のあれこれや認知心理学・行動経済学など、興味深い話が盛りだくさんの90分でした。



講師：村千鶴子弁護士

## 市町の消費者行政しらべ結果報告

消団連では、毎年「消費者問題」についての調査活動を行っています。2011年度は県内各市町の消費者行政の現状や「地方消費者行政活性化基金」終了後の課題などについてアンケート調査を行い、その調査結果をまとめました。

### ●調査の方法

2011年の12月から2012年2月にかけて、地元消費者団体の会員と窓口を訪問し、担当者にアンケートの趣旨を説明し、簡単に状況を聞き取りました。回答いただいたアンケート用紙については後日返送いただくという方法で実施。9月14日すべてから回答いただきました。

### ●調査結果の概要

#### 1 消費生活相談窓口の概要

広島県では、2010年4月に県内全ての市町に窓口が設置されました。4市で相談員が増員されましたが、半数の5市7町は相談員1名体制(兼務含む)であり、相談員が対応する日数も週1日から6日と地域格差があります。財政や人員確保の問題もあります。が、兼務の自治体へは専門相談員の配置を消費者としては望みたいところとあります。

#### 2 相談件数、内容

相談件数は、2004年をピークに、減少傾向で、2011年度も2万7千件余りと前年を約8%下回っていますが、人口2万人規模の市町では増加しています。小

規模の自治体では、活性化基金の活用により、相談体制の整備、住民への広報・啓発活動が強化され、相談の掘り起こしが進んでいます。

#### 3 消費者行政予算、活性化基金の活用状況

年齢別では、高齢者が増加。若者層でもインターネット関係の相談は多いようです。相談内容では、有料サイトやネット販売などの情報通信サービスや、未公開株など金融商品に関する相談が増加しています。悪質業者の手口も巧妙化しており、相談内容が複雑で対応が困難な状況も発生しています。

#### 4 基金終了後の課題、消費者行政の悩み

各自治体とも、相談体制の維持・推進は必要との共通認識を持って

おり、財源の確保が最大の悩み。基金に代わる財政的支援を要望されています。また、相談員のスキルアップと窓口の周知徹底、相談の掘り起こしも重要な課題であり、窓口に来ない(来られない)方への対策が必要です。

#### 5 高齢者の被害防止のための連携、ネットワークづくり

7市6町で、福祉関係機関との連携があり、連携がないという市町でも、個々のケースでは相談・連絡を取り合いながら必要な機関への「橋渡し」ができています。ほぼ全ての市町で、被害防止のために「地域での見守りは重要」と認識されています。

#### ●消費者団体への期待、課題について

①消費者問題の専門家として、行政や地域と連携し消費者被害防止に役割発揮を。  
②消費者力のアップと地域へ関心を持つ、自覚と責任のある消費者に。  
③被害防止ネットワークづくりを推進し、「消費者被害を許さない広島県」の実現を  
以上の期待、課題を受けて、今後も活動を推進していきたいと思っております。  
(※広島県生協連は、広島県消費者団体連絡協議会の事務局を担当しています。)

## 広島県「平成24年度 大規模災害対応訓練」に参加

■日時 2012年11月15日(木)

■会場 広島県防災拠点施設

(三原市本郷町、広島県宇佐港隣)

■主催 広島県



手前からコープCS ネット松尾 CSR・ISO 統括課長、生協ひろしま吉田物流企画 G 統括課長

広島県と民間事業者団体・防災関係機関・市町等が連携し標記訓練が行われました。今回の訓練の特徴は、東日本大震災の教訓を踏まえ、生協をはじめとする民間16事業者30人を加えて実施されたことです。(全体規模130人)

広島県生協連からは、CS ネットと生協ひろしまの2名が「連絡員」(※1)として、「救援物資等調達・配送訓練」に参加しました

(並行して、通信途絶事故対応訓練、代替施設運営訓練等あり)。

緊急物資調達の流れについて、県の防災計画に事業者団体の立場の気づきが反映されたことは特筆すべきで、協定が実際に発動された際の生協の体制・対応についても、具体的に検討する良い機会となりました。

県生協連はこれからも、行政や関係団体・事業者と連携し、総合力で県民生活の安全・安心、とりわけ防災・減災・救援活動に貢献できるよう、会員生協や日本生協連・全国生協とも力を合わせ、積極的に役割を果たして参ります。

(生協ひろしまの重信管理部統括部長・中嶋リスク管理担当と、県連の岡村会長理事・板屋事務局次長がオブザーバーとして見守りました。)

※1 「連絡員」とは、県災害対策本部又は救援物資輸送拠点等に生協が派遣する物流専門家のごとで、県と県生協連が「災害時における物資の調達等に関する協定書」締結(2012年6月13日)の際に、「連絡員を派遣するよう要請することができ」旨を明記しました。(なおこの協定は、阪神・淡路大震災の翌1996年に、県と生協ひろしま・日立造船因島生協・竹原生協が結んでいた協定を、連合会を取りまとめる形で見直ししたものです。)

## 広島県健康福祉局長と懇談

■日時 10月4日(木)

■会場 広島県健康福祉局長室

広島県生協連「福祉事業推進協会」では、県の医療・介護・福祉政策への理解を深めるため、定期的に健康福祉局長と懇談しています。今年も、佐々木健康福祉局長、棚田地域ケア部長はじめ、医療政策課・健康対策課・地域福祉課・高齢者支援課・介護保険課より高齢者福祉関係全ての課長にもご多用な中ご出席いただきました。

生協からは、岡村会長理事、高田協議会代表はじめ9名が出席し、「北欧視察研修」で高齢者施設



設・住宅の先進事例から学んだ理念や、広島医療生協が新設するガン緩和ケア病棟の構想などについて、報告しました。

県からは、購買生協の移動販売車(広島県地域支え合い体制づくり事業)助成や、医療生協の健康増進班活動等について評価いただき、暮らしのトータルサポート・「生活支援」分野への更なる貢献や、他の地域資源とのネットワークの要としての役割発揮について、期待のご意見をいただきました。

引き続き、県内の医療・介護ならびに地域福祉に貢献できるよう、生協間連携を強め、取り組んでいきます。

## 役員執行体制のお知らせ



12月5日の弊社第4回理事会において、岡村信秀会長理事が兼務しておりました専務理事の職が解かれ、新たに高田公喜(現常務理事)が専務理事に就任いたしました。倍旧のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 高齢者の消費者被害防止シンポジウムのご案内

基調講演 『老いの安全・安心を守る』  
——高齢者・消費者被害を防ぐために——

講師 樋口恵子さん  
高齢社会をよくする女性の会 理事長

消費者ネット広島では、高齢者等が安心してくらすための「見守り」の取り組みが地域や組織を超えて広がっていくことを願い、標記行事(基調講演・パネルディスカッション)を開催します。是非ご参加ください。

■日 時 2013年2月25日(月) 13:00-16:00

■会 場 広島県民文化センター ホール

■参加費 無料

※パネルディスカッションでは、最新被害事例や対策、地域の見守りについて話し合ってください。

■お申込み・お問い合わせ(主催)

特定非営利活動法人消費者ネット広島

TEL 082-962-6181

(※広島県生協連は消費者ネット広島を応援しています。)